

## 序論

使役は他者に動作・作用をさせる意を表す表現である。使役文には使役者 (*causer*) 及び被使役者 (*causee*) がある。日本語では一つの使役形を表す表現は動詞に 助動詞 『せる・させる』を付くことである。五段動詞の 『行く』は未然形の『ない』の形に『せる』を付く『行かせる』のように、一段動詞の『食べる』は未然形の『ない』の形に『させる』を付く『食べさせる』のように、変格動詞の『する』は『させる』, 『来る』は『来させる』になる。

使役形に使う動詞は対象を要るか要らないかによって、『自動詞』と『他動詞』に 区別されます。庵 (2000: 300) によるとは自動詞の 場合 基本的には動作主は ヲ格でも 二格でも 表されると言い、そして、: 他動詞の 場合, 他にヲ格があるので 動作主は 二格で表されると言うことである。

自動詞文では、対象が一つだけである。しかし、他動詞文では、対象が二つあるので、*double o constraint* という問題が起こる可能性もある。ですから、対象が直接対象と間接対象に区別される。このような文にヲ格が直接対象を表すので、被使役者 (*causee*) の間接対象が 二格 だけで表される。

しかし、*double o constraint* は 他動詞文だけではなく、自動詞文にも起こることができる。自動詞の通過する場所を示す場合はヲ格を使わなければならないときに、被使役者 (*causee*) が 二格 だけで表される。

そして、意味から見ると、辻村 (1996) によると基本的にヲ格は強制意味である、二格は許容意味であると言われる。しかし、二つ対象がある 他動詞文に または 自動詞の通過する 場所を示す文に あいまい な 意味を起こす。砂川 (1998: 129) によって、他の意味があると言い、原因の意味である。

## 本論

この本論に、動詞の一段動詞、 五段動詞、 変格動詞に基づき『~せる ~させる』の使役文を分析する。

### 使役~せる~させる + 一段動詞

ほんの 短い文 でも、 毎日、 学生者 に日本語で 文章を 考えさせる ことができます。(TMN, 2007: 55)

上の文には、『考えさせる』という動詞がある。この動詞には 『~させる』助動詞が『考える』の動詞 に付いて、『考えさせる』になる。『考える』は 他動詞なので 対象がある。この文 には 対象が 二つ である、 文章 と 学生者である。文章は直接対象で、 学生者は 間接対象 である。使役者 (*causer*) は先生、

しかし使役者が書いてなくて、被使役者 (*causee*) は学生者 である。 *Double o constraint* が起こって間接対象は 二格を使い、ヲ格が直接対象を 表す ために使われる。この文の 意味は 強制である。

### 使役~せる~させる+ 五段動詞

どうか 都へ、行かせて ください。(SK, 1985:48)

この文に『~せる~させる』助動詞 は『行く』動詞 に付いて、『行かせる』になる。 許可の事象であるため、『~てください』で 『行かせて ください』になる。『行く』の動詞は自動詞なので 他の対象がありません。 使役者 (*causer*) と被使役者 (*causee*) は 文に書いてありません。 しかし、 文章から分かることができる。 使役者は両親で、 被使役者は 息子である。 自動詞であるので あいまい意味が 起こることができる、しかし 『どうか』 の使い があるので 許容の意味 である。

### 使役~せる~させる+ 変格動詞

みんなの 前で 発表させて ください。(TMN, 2007: 49)

上の文には、『~せる~させる』は『発表する』動詞 に付いて、『発表させ

る』になる。被使役者は話している人で、使役者は相手である。一般的に、『~てください』の形は動詞の動作主が他人である、しかし使役形の使いがあるので話している人が動詞の動作主にある。この文は許容意味を持つ。『~てください』形の使いがあるので、強制意味を使うことができません。

## 結論

1. 使役形は他動詞及び自動詞を使うことができる。自動詞の場合は、被使役者がヲ格でも二格でも表される。他動詞の場合では *double o constraint* が起こることができる。ですから被使役者が二格を使い、ヲ格がその文の直接対象を表すために使われる。自動詞の通過する場所を示す場合も同じである。ヲ格を使わなければならないときに、被使役者が二格だけで表される。
2. 使役の意味は三つある。強制意味と許容意味と原因意味である。このような意味は文の構造から分かることができる。

## DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR .....	i
DAFTAR ISI.....	iii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah .....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	8
1.3 Tujuan Penelitian .....	9
1.4 Metode Penelitian dan teknik Kajian .....	9
1.5 Organisasi Penulisan .....	10
BAB II KAJIAN TEORI .....	12
2.1 Morfologi .....	12
2.2 Sintaksis .....	16
2.3 Morfosintaksis.....	21
2.3 Semantik .....	21
2.4 使役 .....	23

BAB III ANALISIS DATA .....	34
3.1 使役~せる~させる + 一段動詞 ‘verba golongan II’ .....	37
3.2 使役~せる~させる+ 五段動詞 ‘verba golongan I’ .....	41
3.3 使役~せる~させる+ 変格動詞 ‘verba golongan III’ .....	50
BAB IV KESIMPULAN .....	56
DAFTAR PUSTAKA .....	58
KLASIFIKASI DATA .....	v
SINOPSIS .....	xviii
RIWAYAT HIDUP .....	xix